

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西南学院大学 新体育館	階数	地上3F
建設地	福岡県福岡市早良区西新七丁目798-15,798-27,798-28	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、都市計画区域内	平均居住人員	300人
地域区分		年間使用時間	1,750時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 0.0	評価の実施日	2021年10月1日
敷地面積	28,083 m ²	作成者	株式会社 梓設計
建築面積	3,962 m ²	確認日	2021年10月8日
延床面積	9,577 m ²	確認者	株式会社 梓設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギ-

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
総合 2012年に大学が策定した「キャンパスグランドデザイン」の整備方針に沿って、地域に開かれ・地域に貢献する、統一感ある美しいキャンパスづくりに寄与する施設を計画する。大学のブランドを象徴するレンガを基調とした外観デザインとすることで、キャンパス内の他施設との調和を図るとともに、入学式や卒業式といった式典会場として相応しい大学のシンボルを創出する。	その他 既存樹木(マツ)やキャンパス内の他施設との調和を考慮した、外構・建物計画とすることで、統一感のあるキャンパスを実現する。また隣接地および敷地内の元寇防塁史跡については、管轄する埋蔵文化財課との協議の上、細心の
Q1 室内環境 ・スポーツ諸室からの外部への音漏れに配慮し、遮音性の高い建具等を採用 ・スポーツ諸室における競技性を考慮し、吸音材を積極的に採用	Q2 サービス性能 ・建学の精神「西南よ、キリストに忠実なれ」を体現すべく、十字架をモチーフにした要素を配置(メインアリーナの屋根架構など) ・アリーナやエントランス等については、計画の初期段階
LR1 エネルギー ・自然換気システムを採用したソーラーテームニーを配置することで、自然エネルギーを有効活用	LR2 資源・マテリアル ・躯体材料や内装仕上げ材等に積極的にリサイクル材を採用 ・特に内装材において、有害物質を含まない材料を採用
	Q3 室外環境(敷地内) ・建物形状を整形にし、バルコニー等によって立面を分節することで、周囲への圧迫感を低減 ・敷地境界沿いの壁面をセットバックした上で植栽を施すことで、利用者の安全性および良好な景観形成に配慮
	LR3 敷地外環境 ・外構の大部分に透水性・保水性に優れた材料を採用 ・大学や周辺施設の利用者および近隣住民の安全性に配慮し、出入口や駐車・駐輪スペースを適切に計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される